



社会貢献イベント 朗読会「ことばの力を楽しむ会」東京公演を開催しました

伊藤忠エネクス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：岡田賢二）は、1月27日（日）、社会貢献イベントである朗読会「ことばの力を楽しむ会」を王子ホール（東京都中央区）において開催いたしました。

「ことばの力を楽しむ会」は当社主催の社会貢献活動として、東日本大震災の被災地の方々の生きる力を応援することを目的に2014年から開始しました。震災を忘れないという思いと、朗読を通してあらゆる世代のことばの感性を育てたいという願いとともに全国で継続して開催しています（当開催で9回目。2013年度：青森県八戸市、2014年度：宮城県仙台市、2015年度：東京都中央区、2016年度：石川県金沢市と東京都中央区、2017年度：福岡県福岡市と東京都千代田区、2018年度：北海道札幌市、東京都中央区）。今回は約300名のお客様にご観覧頂きました。

今回のテーマは「いのちを読む」。出演は第1回目からご出演いただいている山根基世さん、第2回目からご出演いただいている進藤晶子さんの朗読をはじめ、アメリカ出身で詩人のアーサー・ビナードさんをゲストとしてお招きし、アーサーさんにはご自身の短編著作を朗読していただきました。あわせてピアノ、バイオリン、チェロの演奏でこころをつなぐ朗読を演出いたしました。

会場では東日本大震災ふくしま子ども寄附金への任意募金への呼び掛け、115,276円が集まりました。この募金は後日すべて「東日本大震災ふくしま子ども寄附金」に寄附させていただきます。ご協力いただいた皆様、どうも有り難うございました。

当社は今後も「ことばの力を楽しむ会」等の社会貢献イベントを通じて、活力ある未来を築く次世代に豊かな心を育くみ、地域の創生に貢献してまいります。

「ことばの力を楽しむ会」は毎年2回の開催を予定しております。次回観覧者募集のご案内は詳細決定次第当社ホームページに掲載させていただきます。

※「ことばの力を楽しむ会」開催概要（朗読作品、出演者プロフィール等）につきましては、別紙のプログラムをご参照ください。

会場の様子



ピアノ・バイオリン・チェロの演奏でスタート



舞台の様子



左から進藤さん、アーサーさん、山根さん



進藤さん朗読「拝復、ポンカンにて」



アーサーさんは自著の短編を6作朗読



山根さん朗読「おらおらでひとりいぐも」



各作品いのちについて考える内容でした



客席の様子

【本件に関するお問い合わせ先】

伊藤忠エネクス株式会社 社会貢献・総務課 TEL 03-6327-8000

朗読会

楽しいのちを讀む ことばの力を 楽しむ会

2019年
1月27日

13:30~15:30 (開場13:00)

王子ホール

プログラム 開場13:00/開演13:30

第1部 60分 (13:30~14:30)

進藤晶子
「拝復、ボンカンにて」

アーサー・ビナード
「看板」「釣り上げては」(他全6編)

(休憩15分)

第2部 45分 (14:45~15:30)

山根基世
「おらおらでひとりいぐも」

終演 15:30 (予定)



元NHKアナウンサー
山根基世 (朗読)

1948年、山口県生まれ。71年、早稲田大学文学部卒。同年、NHK入局。報道、美術、旅番組など多数の番組、NHKスペシャル「人体」「映像の世紀」等、大型シリーズのナレーションを担当。2005年、女性として初のアナウンス室長。07年、NHK退職。00年、放送文化基金賞受賞。15年度より、公益社団法人文字・活字文化推進機構にて「山根基世の朗読指導者養成講座」開講。「山根基世の朗読読本」「こころの声を「聴く力）」他、著書多数。FM TOKYO「感じて、漢字の世界」毎週土曜日JFN全国38局ネットで放送中。TBS日曜劇場「半沢直樹」ナレーション担当。



元TBSアナウンサー
進藤晶子 (司会・朗読)

1994年TBS入社。「筑紫哲也News23」「ニュースの森」などを担当する。2001年3月TBS退社。1年弱のニューヨーク滞在を経てフリーとなる。その後、司会、執筆、朗読の他、各界のトップランナー数百人に取材するなどインタビューアールとしても活躍。10年3月慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科・修士課程修了。15年3月「山根基世の朗読指導者養成講座」(主催:文字・活字文化推進機構)第一期修了。以降、同講座でアシスタント講師を務める。16年オーチャードホールにて「映像の世紀コンサート」ナレーションを担当。18年セントリーホールで朗読コンサートを初プロデュースする。

朗読作品紹介

「拝復、ボンカンにて」重松清『季節風 春』(文藝春秋)より

東京に進学するため故郷を離れることになったカズユキ。両親はさぞ悲しむだろう、どう別れの時を迎えたものか…と気を揉むのだが、旅立ちの日、両親の目に涙もなければ励ましの言葉すらなく素っ気なく送り出されてしまう。家族の愛情とはこんなものかと肩を落とすカズユキ。しかし、列車の中で…

「看板」「釣り上げては」(他全6編) アーサー・ビナード

第6回中原中也賞受賞作「釣り上げては」(思潮社)より「釣り上げては」「リンゴ園の宇宙人」。表題作は、幼い頃に亡くした父への想いを異国語である日本語で言語化したことで初めて父の死を客観的に捉えることができたという記念碑的作品。

ほか、第8回山本健吉文学賞受賞「左右の安全」(集英社)より「看板」「日常」「悲しみの部屋」「英語で「バケツを蹴る」とかいうが」を朗読。

「おらおらでひとりいぐも」若竹千佐子(河出書房新社)より一部抜粋

郊外の新興住宅地にひとり暮らす桃子さん、74歳。東京オリンピックの年に故郷の東北を飛び出し、夫・周造と出会ってから、結婚、出産、子育てと幸せな日々を送ってきた。しかし、夫が突然他界。やがて子どもたちも自立し疎遠になっていくなか、桃子さんは、ある日ふと夫の墓参りを思い立つ。道すがら幻のように立ち現れる「わらしこ」「おら」「若い女」「中年の女」…。様々な自分と向き合い語りあいながら、桃子さんは歩き続けるのであった。第158回芥川賞受賞作。



アーサー・ビナード
(詩人)

1967年、アメリカ・ミシガン州生まれ。ニューヨーク州のコルゲート大学で英文学を学び、卒業と同時に来日、日本語での詩作を始める。第一詩集『釣り上げては』で中原中也賞、「日本語ばかりほこり」で講談社エッセイ賞、「ここが家だ——ベン・シャーン」の第五福竜丸」で日本給本賞、「左右の安全」で山本健吉文学賞、「さがしています」で講談社出版文化賞絵本賞を受賞。また、2017年には早稲田大学坪内逍遙大賞奨励賞を受賞。エッセイ集に「アーサーの言葉の葉食堂」、絵本に『ドームがたり』、翻訳絵本に「なすずこのっぺ?」ほか多数。文化放送「アーサー・ビナード 午後の三枚おろし」にも出演。三枚おろし」にも出演。



飯田俊明
(ピアノ・作編曲)

クラシカルクロスオーバーを軸に、多彩なジャンルで活動を行なうピアニスト、作曲家。武蔵野音大大学院修了。PTNAコンペティションDuo 特級最優秀賞受賞。その後、池田直樹、岡本知高、平原綾香や、劇団四季、宝塚歌劇団、オカリナのボンヤミカゴ、タンゴの喜多直毅、ジャズの北浪良佳、環境音楽の小久保隆など多彩なジャンルのアーティストを演奏・作編曲でサポート。最近の作品には、NHK高知発地域ドラマ「タルマさんが笑った」主題歌作曲、安藤美姫のアイスショー音楽アレンジ、ゲームAMNESIA音楽フルオーケストラアレンジ、春野寿美礼ニューアルバムアレンジ、NHKドラマ「クロスロード」アレンジなどがある。



高木 弾
(ヴァイオリン)

早稲田大学卒業。6歳よりヴァイオリンを始める。ジュリアード音楽院プレカレッジにてヴァイオリンを田中直子氏に師事。キース・ロックハート、エリック・クンゼ、ネイブル・フィル、シモンボリバー・シンフォニー等と共演。サウスウエストフロリダ・ヤングアーティストコンクール最優秀賞、ニューヨーク日系人会音楽賞特別賞等を受賞。カーネギーホール、リンカーンセンター・アリストリーホールでの演奏会等に多数出演。サイトウキネン室内楽勉強会、アスペン音楽祭に参加。米国CBSテレビ「マーサ・スチュアート・リビング」等に出演。現在クラシックに限らず様々なジャンルで演奏活動を行っている。



富田千晴
(チェロ)

山口県宇部市出身。東京藝術大学音楽学部卒業。デザインK国際音楽アンソリミテッドコンクール全部門中グランプリ受賞、横浜国際音楽コンクールアンサンブル部門 第一位、他受賞歴多数。城田優初演出作品ミュージカル、「アップル・ツリー」にてメインチェロに抜擢。「Before After」、「SHE LOVES ME」、「LAST FIVE YEARS」、「A CLASS ACT」、宝塚「エリザベート」演奏。また、秦基博、絢香、山崎育三郎等、様々なアーティストのライブサポートやレコーディング、ツアー、TV番組に出演。ゲーム音楽のレコーディング、ジャズライブ出演の他、後進の指導にもあたる。